

道博協ニュース 第 134 号 (2024 年 3 月 31 日 発行)

令和5年度北海道博物館協会ミュージアム・マネージメント研修会について

令和 5(2023)年 10 月 26 日(木)・27 日(金)に「地域の価値を高めるミュージアム」をテーマとして、令和 5 年度北海道博物館協会ミュージアム・マネージメント研修会を開催しました。

基調講演では北海道大学大学院文学研究院特任教授の卓彦伶氏より「地域に寄り添うミュージアムがもたらす社会的価値」という演題で、博物館は研究や教育を通じて地域課題に貢献でき、その機能をより活かすための人材が必要であることや、北海道大学のリカレント教育プログラムである「プラス・ミュージアム・プログラム」について説明がなされました。

事例報告では、まず釧路市立博物館学芸主幹の石川孝織氏より、釧路市と同じく石炭産業にゆかりのある田川市石炭・歴史博物館との連携に端を発し、全国石炭産業関連博物館等研修交流会の開催や台湾の博物館との友好館協定を結ぶに至った事例を報告し、博物館同士の連携の重要性を説明しました。浦幌町立博物館学芸員の持田誠氏からは浦幌町とアイヌ民族との仲介役としての博物館の果たした役割についての報告や今後の展望が語られました。根室市歴史と自然の資料館学芸主査の猪熊樹人氏からは企業との連携について、地元の信用金庫からの支援や企業版ふるさと納税を活用し事業支援を受けた日本遺産「鮭の聖地」の物語で実施された事業について報告がされ、企業内部や普段博物館とは無縁の方にも博物館

の存在をアピールできることが説明されました。

意見交換会はワールドカフェ方式で行われ、ミュージアムグッズの製作の裏側や国立科学博物館のクラウドファンディング、博物館での働き方などについて地域や各館の事情も踏まえた意見が活発にやり取りされました。

2 日目は釧路市立博物館の展示について開館当初からの変化や展示の工夫などを担当学芸員の解説とともに見学し、釧路市の自然や歴史、展示についての裏話などについて触れる機会となりました。



研修会の様子

[根室市歴史と自然の資料館 大久保 太智]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設の紹介

石狩炭田北部に位置する赤平市は、地域の基幹産業として石炭産業が発展し、市内最後となった住友石炭赤平炭硯株式会社は平成 6(1994)年に閉山しました。その後、平成 15(2003)年に赤平市で第 6 回国際鉱山ヒストリー会議が開催されることになったことを契機に、訪問者に対する対応として、炭鉱施設の公開や、機械・器具類の展示、資料の整理などが

なされ、炭鉱遺産の保存・活用に向けた素地が作られました。同会議終了後には、こうした機運を引き継いで、炭鉱施設の公開とガイド案内等を行う市民グループの活動が続けられるなど、炭鉱遺産に関連する動きは連綿と続けられました。

こうした背景のもと、平成 30(2018)年 7 月当館が開館しました。当館は、石炭産業で発展した赤平市の炭鉱の歴史を後世に語り継ぎ、資料の展示や実際の炭鉱施設の見学を通じて炭鉱の果たした役割を理解してもらうよう設置されました。

展示内容としては、市内の旧住友赤平小学校から

移設した約 200 点の資料があり、そのほか、施設に隣接する住友赤平炭鉱第一立坑櫓のガイド付き見学が特色となっています。第一立坑櫓は、石炭採掘の深部開発と年産 200 万トン体制を達成するために、住友石炭鉱業株式会社によって昭和 38(1963)年に建造され、平成 6(1994)年の閉山まで約 31 年間稼働しました。

また、令和元(2019)年には「本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～」が日本遺産に認定され、赤平市内では「住友赤平炭鉱立坑櫓・周辺施設」「北炭赤間炭鉱ズリ山」「空知川露頭炭層」の 3 箇所がその構成文化財となっています。

当館では、本物の炭鉱機械・器具類や図面の見学、そして立坑櫓の建屋内部のガイド付き見学という貴重な体験ができます。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



施設外観、左奥は住友赤平炭鉱第一立坑櫓

[赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設

学芸員 井上 博登]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

木彫り熊 100 周年記念事業を開催

令和 6(2024)年は、北海道土産として有名な木彫り熊が八雲町で発祥して 100 周年の年です。木彫り熊の発祥は、尾張徳川家による集団移住によって市街地が発展した八雲町内で、徳川農場を運営していた尾張徳川家 19 代当主徳川義親が、欧州視察中にスイスのベルンで見かけた木彫り熊を含んだペザントアート(農民美術)作品群を持ち帰り、八雲で制作を推奨したことがきっかけです。大正 13(1924)年 3 月 26 日から八雲農村美術工芸品評会が開催され、スイスの木彫り熊を参考に作られた北海道第一号の木彫り熊が出品されます。八雲町では、この品評会の開催初日を木彫り熊発祥の日としています。

八雲の木彫り熊は、北海道土産として有名となって木彫り熊という木彫の一ジャンルを築き、戦前の観光ブームで売れますが、戦争のため制作者が一人となり、戦後の観光ブームにおいては他地域で作られた木彫り熊(特に鮭をくわえた形)の陰に隠れます。平成 24(2012)年に木彫り熊展示室、平成 26(2014)年には八雲町木彫り熊資料館が開館し、各種メディアで取り上げられた結果、発祥の歴史や地域性、作家性、デザインに光が当たり、今ではクラフトやアートといった視点から若い人達を中心に人気があります。町内でも木彫り熊を店内に飾るだけでなく、販売する店も現れました。令和 4(2022)年度には、ビームス ジャパンと資料館とが共同で木彫

り熊をモチーフにしたグッズを制作し、資料館資料＝文化財を活用した魅力発信をしています。

そんな八雲町では、発祥の日である令和 6(2024)年 3 月 26 日に、100 周年のキックオフとして名古屋市長を招いての講演と、尾張から八雲への士族移住者の子孫と市長とのトークセッションを行い、会場には木彫り熊を展示しました。資料館では尾張徳川家と八雲、そして木彫り熊についての特別展を開催し、その後も町民と連携して様々なイベントの開催を予定しています。



木彫り熊資料館展示室

[八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館

学芸員 大谷 茂之]

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和5年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会 開催報告

令和5(2023)年10月19～20日、苫小牧市を会場に研修会を行いました。19日は「第62次南極越冬隊員として1年間従事した南極での生活・体験」と題し、伊達市の伊達元成氏による基調講演を行いました。令和3(2021)年から令和4(2022)年にかけて越冬隊員として、モニタリング観測を担当され、南極での観測結果や日本との環境の違い、昭和基地での生活、学芸員としてのスキルを活かした取組などについて、ご講演いただきました。ここ60年、地球温暖化の原因となる二酸化炭素濃度は、過去最高を更新し続けていることや、海水温の上昇により氷床下から融解が進んでいることに触れ、見た目は変わらなくても確実に変化が起きていることに警鐘をなされました。また、日本の生活では成果を感じにくい節電や節水の大切さについて、厳しい南極の冬を過ごしたからこそ実感できたその体験談からは、日本での恵まれた豊かな日常生活や、環境問題に対して、参加者一人一人が考え、向き合う時間となりました。

20日は、令和4(2022)年に苫小牧市と地域活性化包括連携協定を締結した北海道大学苫小牧研究林で野外巡検を行いました。市民の憩いの場としても活用されている研究林内での調査の見学や実技を通し

て、森林の生態系を学ぶことを目的としたものです。巡検当日は雨天のため、予定していた樹木調査の実技は中止となりましたが、森林資料館を見学し、大学職員が案内するバスで実際に研究を行っているフィールドを周ることができました。広大なフィールドで調査方法を工夫しながら、様々な研究が行われていることや、苫小牧市や他機関と連携した調査や教育・普及活動を行っていることなど、参加者はたくさんの知見を得る機会となりました。

これからも、様々な博物館活動や研修の機会を通して、日胆地区の歴史や自然、文化について共有できるように研鑽を深めていきたいと感じています。



苫小牧研究林での野外巡検の様子

[苫小牧市美術博物館 主査 江崎 逸郎]

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

なつかしい浜頓別の鉄道展

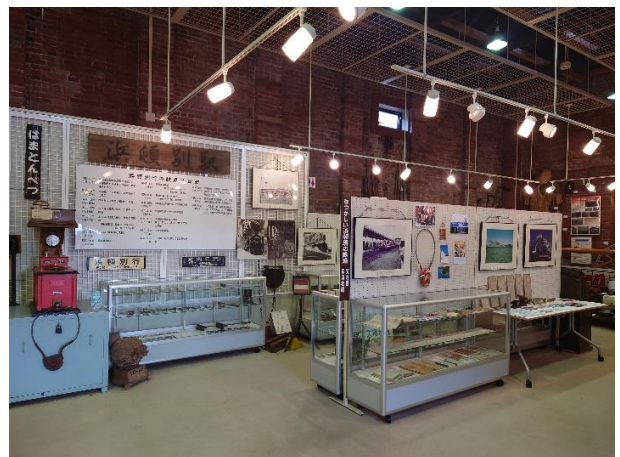
浜頓別町郷土資料館では、令和5(2023)年8月11日(金・祝)から8月17日(木)まで、郷土資料館夏季一般開放に併せ、「なつかしい浜頓別の鉄道展」を開催しました。

実際に使われていた時刻表やタブレット閉塞器



展示の様子

などを、写真パネルや観光パンフレットとともに展示しました。町内外の鉄道ファンや、かつて浜頓別駅を利用した人々が多く訪れ、懐かしい思い出に浸っていました。当時大きな荷物を背負い、「カニ族」として浜頓別町を旅行していたという人や、通学に



展示室の様子

利用していたという人の思い出話を聞くことができ、当時を知らない現在の担当としては、とても勉強になりました。

夏季一般開放の終了後も、鉄道に関連する展示物の一部をそのまま常設で展示しており、開催期間内に来ることができなかった方や、もう一度ゆっくり見たいという方が、シマエナガ展や北のシルクロード展開催時に来館され、改めてじっくりと浜頓別の鉄道の思い出を楽しんでいました。

当館では、町内の遺跡で出土した考古資料、明治

～昭和の砂金掘りに関する資料、近代産業に関する資料などを常設展示していますので、幅広い分野で知識を深めていただけたと思います。

今後は現物の展示の他、インターネット上のアーカイブ化についても進めていき、多くの人が気軽に浜頓別町の歴史を見ることができるようになりたいと考えています。

[浜頓別町教育委員会 山田 瞳]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

令和5年度美術企画展

「世界一周トリックアートの旅」展

よりよい美術鑑賞の機会を地域住民に提供することを目的に、北見市美術展実行委員会の主催で、毎年美術企画展を北網圏北見文化センターで実施しています。令和5(2023)年度は7月15日から8月27日まで「世界一周トリックアートの旅」を開催しました。

「世界一周トリックアートの旅」を大きなテーマとし、普段観に行くことが難しい世界の名所をめぐる目の錯覚を利用した作品30点を展示しました。他の展覧会と異なり、作品を見て・さわって・撮っ



展示室の様子



ギャラリートークの様子

て楽しめる体験型展覧会のため、児童生徒から高齢者に至るまで幅広い層に親しまれる展覧会となりました。

また、会場内では、作品説明や写真撮影を代行するためのガイドスタッフを配置し、作品の特徴や撮影ポイントを知ってもらうことで、入場者が楽しく安全に観覧できる環境づくりに努めました。

この関連事業として、ギャラリートーク、トリックアート公開制作、ふしぎ？オモシロ！フォトコンテストを開催し、夏休み・土日を中心に家族連れなど多くの人で賑わい、盛況のうちに終えることができました。

[北網圏北見文化センター 堀籠 江莉果]

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

博物館資料、遺跡の3次元データ

令和4(2022)年4月に博物館法の一部を改正する法律が成立し、約70年ぶりに博物館法の単独改正が行われました。その中で博物館の事業として、博

物館資料のデジタルアーカイブの作成と公開が新たに位置付けられています。デジタルアーカイブのとらえ方は各館の考えがあるかと思いますが、根室市歴史と自然の資料館では、資料の3次元計測と公開方法を検討してきました。3次元モデルの作製についてはレーザーで計測する方法と写真画像を解析する方法があります。レーザー計測の機器は産業

用の高価なものが多いですが、アップルコンピューターの iPhone、iPad のプロモデルにはレーザーセンサーがついており、専用アプリを使うことで3次元モデルの作製が可能になっています。画像から3次元モデルを作製する方法はデジタルカメラ、パソコン、解析ソフトが必要ですが、iPhone、iPad のプロモデル用のアプリも増えてきています。

また、北海道特有の遺跡のあり方である竪穴住居跡がくぼみとなって残り、密集する竪穴群やアイヌ民族が残したチャシ跡の測量についても、ドローンにレーザー機器を積んで計測し測量図を作っています。従来の等高線による測量図のほか、地形が直感的に把握できる立体図などにも出力でき、活用の幅を広げています。遺跡のレーザー計測は遺跡の微地形までデータ化できるため、現状の記録保存となり、今後、災害や地形に経年変化が生じた際にどこがどの程度壊れたかを把握する上でも重要であると考えています。

3次元モデルの公開、活用は検討すべき問題です

が、今のところ「sketchfab」という3次元モデル共有サイトへの投稿が一般的です。また、コロナ禍により学校では児童生徒1人1台タブレット端末を持っていますので、学校での活用も想定されますが、どのように授業に取り入れるか、博物館からのアプローチが必要と考えています。



根室市歴史と自然の資料館
の3次元モデル公開サイト
(URL:
https://sketchfab.com/nemuro_museum)

[根室市歴史と自然の資料館

学芸員 猪熊 樹人]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

「北海道ゾーン」

～守られているのは私たち～

釧路市動物園は、平成23(2011)年に「釧路市動物園基本計画」を策定し、3つの目標と9つの基本方針を定めました。その中で、動物園を5つのゾーンに分け、そのうちの「北海道ゾーン」では北海道の自然の中に生息する動物展示を行うこと、森から海へとつながる流域として、一連のつながりを伝えていくこと、アイヌ民族の自然や動物との関わり、文化を伝えていくことを目標としています。

この「北海道ゾーン」は、北海道東部の自然環境とそこに住む動物たちをコンパクトにまとめており、シマフクロウやタンチョウといった世界的に希少な動物ばかりではなく、エゾリス、エゾクロテン、小型フクロウ類といった、身近に生息しながら、実際にはなかなか出会うことができない動物たちを飼育している当園の象徴的なゾーンです。

釧路湿原に代表される海岸沿いの湿地と、周辺の森林が入り組んだ多様な道東の自然環境は、世界的に数の少なくなった動植物を静かにはぐくんできました。



北海道ゾーン入り口

この貴重な自然を保全していくためには、同じ地域で共に暮らしている動物について知り、そこから自然の成り立ちを理解していくことが一番分かりやすいのではないかと考え、園内に住みついている野生動物も含めた自然環境を背景に、北海道で見られる動物たちを展示しています。

彼らに必要な自然を保全し、どのような距離を置きながら暮らしていくのがよいのか、皆様と一緒に考えてゆく一助になればと思います。

[釧路市動物園 平野 静]

学芸職員部会 NEWS

学芸職員部会からの報告

学芸職員部会と学芸員をめぐる動向

学芸職員部会は、令和5(2023)年10月5日・6日に余市町で研修会・総会を開催しました。研修会では資料台帳をテーマとし、分野ごとの資料整理方法や、館ごとの台帳整備状況などについて現状報告があったのち、議論などを行いました。

資料台帳の整備や目録の公開は、博物館としての基本的な機能であり、学芸員の日常業務の中でもベースとなるべき部分ですが、北海道の博物館の実情をみると、整備が立ち後れている部分があるのも実情です。これには各館のさまざまな事情や背景があり、一概に解決法を示すことができない難しい問題も抱えています。博物館や学芸業務の根幹に関わる部分ですので、改善が必要な問題です。

資料台帳の問題は、資料の収集・廃棄をめぐる問題とも直結します。さらには、学芸員の博物館員としての専門性や、職員配置の問題なども関係します。博物館法が改正され、これまで以上にさまざまな役割が期待されている博物館ですが、それを担う博物館員の置かれている現状は依然として厳しい状況にあることも事実です。

総会では学芸職員部会の役員改選が行われ、部会長は、いしかり砂丘の風資料館の志賀健司学芸員から、私に交代となりました。地域連携やネットワークなど、さまざまな形で部会事業を盛り立ててこられた志賀さんに比べ、私はこれまで博物館法制度や学芸員任用など、どちらかという組織論的なことに終始しがちでした。あらためて自分の役割や学芸



学芸職員部会の様子

職員部会にできることは何かを考え、取り組みを進めていきたいと思えます。

道内の学芸員も徐々に世代交代が進み、学芸職員部会の部会員数も増え、大きな組織となりましたが、その分、お互いの顔が見えづらくなってきている課題も抱えています。まずは、北海道にはどのような学芸員がいるのか？お互いをよく知るといふ基本に立ち、名簿の発行や博物館員データベースの発信などを進め、学芸員をはじめとする博物館人の仲間の繋がりを強化していきたいと思えます。その上で、収蔵庫問題や台帳整備の課題のような、現場で抱えている悩みを気軽に相談でき、お互いに協力しあえるようなネットワークの構築を目指します。

改正博物館法で先送りされた日本の学芸員制度について、部会でも議論の場を増やし、さまざまな提言をはかっていきたいと考えています。

[学芸職員部会長・浦幌町立博物館 持田 誠]

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

令和5年度第58回北海道青少年科学

館連絡協議会職員研修会の報告

令和5(2023)年11月1日(水)～2日(木)の2日間、道科協加盟のスタッフを対象とした令和5(2023)年度第58回北海道青少年科学館連絡協議会研修会を開催しました。

今年度の職員研修は、開催館である岩見沢郷土科学館のある岩見沢市にて開催いたしました。

今年は、NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団様のご協力をいただき、令和元(2019)年5月20日に文化



平野講師の講話

庁より日本遺産に認定された「炭鉄港」を中心に、「Civic Pride」で地域の歩みを価値へと変える」と題して、初日は当事業団の理事長 平野義文様にご経験談を含めてご講義いただきました。

「炭鉄港」は近代北海道を築く基となった空知・室蘭・小樽を石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結ぶことにより、過去から未来、人の知識の新たな動きを作り出そうとする取り組みであり、開拓使が設置された明治2(1869)年からわずか150年という短い期間で5万人弱だった人口が100倍近くに増え、豊かな社会を達成した北海道の歴史や鉄道を舞台に繰り広げられた物語を知ることができました。

特に空知管内の人口減少は著しく、観光資源が少ない中で新たな取り組みである「炭鉄港」を各自自治体が連携して面として戦略的に発信していくことが過去から未来へ、地域の活性化へとつなげることの重要性を実感しました。

2日目の視察研修では、初日に引続き平野理事長に案内していただき、実際に岩見沢市内の日本遺産構成文化財である朝日駅や岩見沢レールセンター、そして平成21(2009)年にグッドデザイン賞を受賞した岩見沢駅の概容の説明を受け、最後に「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」でコーヒ

ーを飲みながら皆さんで語り合い、地域の資源を発見することや、共有して発信していく仲間づくりの大切さを改めて認識する良い機会となりました。

今回の研修は、科学分野とは少し異なる地域活性化がテーマとなりましたが、皆さん熱心に講師に質問し、知識を吸収された様子で、今後の科学館の運営に少しでも参考になれば幸いです。



岩見沢レールセンター

[岩見沢郷土科学館 館長 平井 文朗]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

写真から出会いと交流が生まれる場

—東川町文化ギャラリー—

東川町文化ギャラリーは、平成元(1989)年11月に開館以来、写真の町東川賞受賞作家作品展の他、様々な企画展の開催や、写真愛好家の方々や東川町民の発表の場として活動を続けてきました。令和2(2020)年5月より増築・模様替え工事を行い、ご利用いただく皆様にとってより快適なギャラリーとなるよう生まれ変わり、令和3(2021)年3月にリニューアルオープンいたしました。

生まれ変わった文化ギャラリーでは、写真展を楽しむことはもちろん、ご家族やお友達と楽しい時間をお過ごしいただけるように、少しずつですが小さなイベントを企画し開催しております。

ハロウィンではイベント期間中、お菓子とチェキを撮影してプレゼントをしたり、クリスマスのイベントや秋の夜長の夜間開館を行ったりなど、1985年の写真の町宣言以来、毎年夏に開催している東川町国際写真フェスティバルの他にも、季節ごとの楽しい時間をお客様と一緒に過ごすため運



ハロウィンイベントに参加して下さった方々

営を行ってきました。イベントを何年か続けていると、「毎年チェキを撮ってもらって家に飾っているので、これからも増えていくのが楽しみ」とお声がけいただき、ご参加いただいた方の生活が写真と共にあること、またそのきっかけ作りができたことをうれしく感じました。

リニューアル後、文化ギャラリーのロゴマークが完成しました。今年40年の記念の年を迎える「写真の町」東川町の歩みは「人」と「人」の出会いから生まれます。その出会いが新しい価値を生み出

し、継続していくことで文化を育みます。文化ギャラリーのロゴには、先人から受け継いだものを未来に繋げていくという想いが込められています。

これからもお客様のご来館をただ待つだけではなく、文化ギャラリーでの出会いをスタッフ自身が楽しみながら、自発的な運営を行い、写真から出会いと交流が生まれる場であり続けることの大切さを改めて感じています。



HIGASHIKAWA
BUNKA GALLERY

東川町文化ギャラリー

東川町文化ギャラリーのロゴマーク

[東川町文化ギャラリー 学芸員 吉里 演子]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2024年4月～9月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
4/28～7/15	史跡旧島松駅通所の開館

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
4/7～7/30	企画展「巨人 日下部鳴鶴展」
8/4～11/30	企画展「近代文学者の書展 2(仮称)」
未定	ギャラリートーク(毎月一度実施予定)

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
～4/7	第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱 ースタッフー押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?!ー」
4/6	自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」
4/20	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第1回(全12回)」
4/21	特別イベント「博物館のウラ側をしてみよう 地学編」
4/27～6/23	第22回企画テーマ展 「北海道樹木万華鏡-スキャンアートと標本で見る木々のかたち-」
5/11	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第2回(全12回)」
5/12	連続講座「アイヌ語講座～きほんのキ～第1回(全4回)」
5/18	自然観察会「樹木の美しさをじっくり見てみよう」
6/1	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第3回(全12回)」
6/2	連続講座「アイヌ語講座～きほんのキ～第2回(全4回)」
6/9	ミュージアムカレッジ「樹木を知る」
6/15	ちゃれんがワークショップ「のこぎりでネームプレートをつくろう」
6/16	特別イベント「石の中からホンモノの化石を掘り出してみよう！」
6/22	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第4回(全12回)」

6/30	連続講座「アイヌ語講座～きほんのキ～第3回(全4回)」
7/7	特別イベント「レクチャー&コンサート『じっくり聴こう!アイヌ音楽』」
7/13	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第5回(全12回)」
7/14	連続講座「アイヌ語講座～きほんのキ～第4回(全4回)」
7/20～9/23	第10回特別展「みんなの鉄道 ーがんばれ!地域の公共交通ー」
7/27	特別イベント「フォーラム 北海道の鉄道 その魅力を伝える」
8/3	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第6回(全12回)」
8/4	特別イベント「北海道『鉄道に取り組む学芸員』サミット」(仮)
8/17	子どもワークショップ「トノサマバツタをさがそう」
8/24	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第7回(全12回)」
8/31	ちゃれんがワークショップ「年表で地球生命史を学ぶ!」
9/1	特別イベント「鉄道と行商を語る!列島『ガンガン』サミット」
9/8	特別イベント「フォーラム 北海道の『駅通所』を語る～その歴史と文化遺産～」
9/14	連続講座「ちゃれんが古文書クラブ第8回(全12回)」
9/15	ミュージアムカレッジ「日記や新聞に見る北海道と樺太の鉄道」

空知

情報なし

後志

錬御殿とまり (0135-75-2849)

期間	タイトル
未定	未定

余市水産博物館 (0135-22-6187)

期間	タイトル
なし	なし

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
5/14	講座「春の自然観察会」
5/25	講座「旧函館博物館一号公開」
7/2～10/13	企画展「北東アジアのシルクロードー北方交易と蝦夷錦ー」(仮称)
7/7	講座「大火の歴史と火災予防」
7/21	講座「夏休み自由研究『五稜郭探検隊』」
7/27	講座「函館公園の花で押し花しおり作り」
7/31	講座「夏休み自由研究『貝の標本をつくろう』」
8/1	講座「夏休み自由研究『黒曜石で石器をつくろう』」

8/3	講座「夏休み自由研究『鹿の角で縄文時代の釣り針をつくろう』」
8/10	講座「夏休み自由研究『汐泊川 歴史と自然観察ツアー』」
9/22	講座「旧函館博物館一号公開」

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
5/3～5/5	普及行事「縄文しおりづくり」
5/11	講座「縄文ドッキーづくり」
6/29, 7/6	体験「縄文時代の漁労を学ぶ」(鹿角釣り針づくり・海釣り体験)
8/3	講座「縄文時代の住居を学ぶ」(竪穴住居ジオラマづくり)
8/24	体験「夏の縄文染め」
9/7, 9/8	講座「縄文時代のモノづくり体験①」(縄文土器づくり)

胆振

国立アイヌ民族博物館 (0144-82-3914)

期間	タイトル
～5/12	基本展示「A Night at the National Ainu Museum ウポポイナイトミュージアム」
～5/12	第6回テーマ展示「ミナ ミナ おばけのマ〜ルとすてきなことば展 MINA MINA — Marl the Ghost and Some Beautiful Words —」
6/29～8/25	第8回特別展示「生誕90年 藤戸竹喜の世界」(仮)
9/14～11/17(予定)	第9回特別展示/国立民族学博物館巡回展「驚異と怪異」(仮)

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
4/27～6/16	企画展「ボン・ヴォヤージュ」
6/29～9/25	特別展「九谷赤絵の極致 宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界」
9/14～11/24	企画展「こどもとおとなの美術展2024」

日高

アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)

期間	タイトル
4月～9月	自然観察会「ブラアポイ(月に2～3回開催する自然観察会)」

上川

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
4月下旬～5月上旬	大型連休企画
4～5月	季節の行事展(端午の節句)
5月	講座「春の自然観察会」

7月	講座「夏の自然観察会」
8月	講座「考古学体験講座」
8～10月	企画展「昔の遊び展」
9月	講座「秋の自然観察会」
9月	講座「歴史探訪」
未定	講座「地質めぐり」
未定	講座「古文書教室（全4回）」
未定	道北地区巡回展
通年	多摩美術大学版画巡回展

宗谷

情報なし

オホーツク

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～10/20	特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」
4/19, 4/20	プチ工房「光の箱」
5/5	イベント「こどもの日記念行事」
5/10, 5/11	プチ工房「チューブプレスレット」
5/25	講演会「フィルムで振り返る北海道の暮らしの歴史」
6/15	体験会「銅版画体験教室」
6/28, 6/29	プチ工房「折り染めうちわ」
7/1～8/31	体験会「昆虫グッズ無料レンタル」
7/1～10/9	ロビー展「すごい標本！すごい資料！」
7/26, 7/27	プチ工房「キラキラカスタネット」
8/9, 8/10	プチ工房「ジェルキャンドル」
8/24	講演会「屈斜路湖と周辺火山」(仮)
9/1～9/30	体験会「美幌博物館でお宝をさがせ！」
9/13, 9/14	プチ工房「やってみよう！草木染め」
9/21	講演会「ふるさと（びほろ）に想いを乗せて」
9/28	体験会「キノコを探そう」

北見市ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
8/31	遺跡見学会

十勝

浦幌町立博物館 (015-576-2009)

期間	タイトル
～4/21	企画展「十勝の鉄道開業 120 年」
4/29	講座「浦幌町立博物館移動講座『ウラホロイチゲ観察会』」

上士幌町ひがし大雪博物資料館 (ひがし大雪自然館) (01564-4-2323)

期間	タイトル
4月～10月	ロビー展「夏鳥展」
5～6月	自然観察会 1
5～6月	自然観察会 2
5～6月	自然館講座 1
5～6月	自然館講座 2
6～7月	自然観察会 4
7～8月	自然観察会 5
7～8月	体験型行事「むしむし WEEK」
8～9月	自然館講座 3

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
4/17～6/23(予定)	収藏品展「コレクション展 I ×テーマ展示 『コレクション選～30年の歩みを振り返る～』」
6/17頃	第30回蕪壺祭
6/26～9/16(予定)	特別企画展「神田日勝記念美術館×釧路市立美術館所蔵作品交換展 コレクションが出会う道東(ぼしょ)」
8/25	第32回馬耕忌
9/21～12/8(予定)	企画展「神田日勝×半谷学展」(仮)
検討中	「未完の馬」のいる風景プロジェクト II
年5回	ワークショップ「アート・キッズ・クラブ」、「ワークショップ」(小学生対象)

釧路

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
～4/4	企画展「春休みイベント 2024 『からだ動かす遊びがいっぱい! はじける! みんなの元気パワーー☆』」
4/27～5/6	企画展「GWイベント 2024」
5/18	普及行事「星空キャラバン『月と春の星座』」
7/20～8/25(予定)	企画展「夏休みイベント 2024」
9/1～9/29	企画展「宇宙月間」

釧路市立博物館 (0154-41-5809)

期間	タイトル
～4/21	企画展「私の博物館『環境省アクティブレンジャー写真展』(仮)」
4/20, 4/21	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/21, 5/19, 6/16, 7/21, 8/18, 9/15	観察会「春採湖畔探鳥会」
4/27～7/7	企画展「釧路の神社(仮)」
4/29(予定)	体験講座「堅穴住居で屋根ふき体験」
5/3～5/5(予定)	体験講座「博物館であそぼう」
5/18, 6/15, 7/20, 8/17, 9/21	観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
5/26	観察会「初夏の探鳥会」
6/8, 8/10, 9/7	観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫」
6/9, 9/1	歴史探訪会「まちなみ散歩」
7/13	観察会「春採湖 汽水のいきもの観察会」
7/13～10/6	企画展「釧路のサケ(仮)」
7/13～10/6	巡回展「カメラは見た!動物たちの素顔」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/20～6/30	写真展「岩合光昭の日本ねこ歩き」
4/27	主催行事「アートシネマ館」
5/4～5/6	主催行事「特別上映会」
5/25	主催行事「アートシネマ館」
5/25	主催行事「美術講座」
6月予定	主催行事「大人の家庭科&お気軽アート教室」 ※テーマ別の3講座
6/8	主催行事「美術講座」
6/29	主催行事「アートシネマ館」
7/13	主催行事「プレミアムトーク」
7/13～9/29	展覧会(共催)「鴨居玲展」
7/13～9/29	展覧会「長倉洋海 戦場から人間へ」
市立小学校の 夏休み期間	主催行事「夏のキッズ・アトリエ」
7/27	主催行事「アートシネマ館」
8/24	主催行事「美術講座・プレミアムトーク」
8/31	主催行事「アートシネマ館」
8/31	主催行事「美術講座・プレミアムトーク」
9/7	主催行事「美術講座」
9/14	主催行事「パフォーミング・シアター2024」
9/28	主催行事「アートシネマ館」

根室

情報なし

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2024 年度の北海道博物館大会について

第 62 回北海道博物館大会は、2024 年 7 月 11 日（木）と 7 月 12 日（金）に函館市で開催予定です。会員の皆様にお目にかかれましてを楽しみにしています。

■一年間臨時職員として事務局の仕事をしてくださっていた飯塚美月さんが、退職します。4 月からは札幌市内の会社に就職されます。この一年で知り合った各館園の皆様の元にも、是非足を運んでほしいと思います。訪れた際には、皆様温かくお迎えいただけますと幸いです。お元気で！

（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 134 号

発行日 2024 年 3 月 31 日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com